

第 12 回 これからの学術情報システム構築検討委員会議事次第

日 時：平成 27 年 10 月 19 日（月）15:00-18:00

場 所：国立情報学研究所 19 階会議室

出席者：配布資料参照

議事

1. 電子リソースデータ共有作業部会の活動について（審議） (資料 2-1)
2. ERDB-JP のパートナー対象外機関について（審議） (資料 2-2)
3. NACSIS-CAT 検討作業部会の活動について（報告） (資料 3)
4. NACSIS-CAT の今後の検討スケジュールについて（審議） (資料 4)
5. 平成 27 年度の検討の進め方について（審議） (資料 5)
6. これからの学術情報システム構築検討委員会 Web サイトの修正について（審議） (資料 6)
7. その他

配付資料

委員名簿

1. 第 11 回これからの学術情報システム構築検討委員会議事要旨
- 2-1. 電子リソースデータ共有作業部会活動について
- 2-2. ERDB-JP のパートナー対象外機関について
- 3-1. NACSIS-CAT 検討作業部会活動報告
- 3-2. NACSIS-CAT 検討作業部会検討事項
- 3-3. 項目別検討状況一覧
- 3-4. 作業部会の今後の検討フロー
4. NACSIS-CAT の今後の検討スケジュールについて
5. これからの学術情報システム構築検討委員会年間スケジュール
6. これからの学術情報システム構築検討委員会 Web サイトの修正について

参考資料

1. ERDB-JP のパートナー登録申請状況
2. 電子リソースデータ共有作業部会について
3. NACSIS-CAT 検討作業部会の設置について
4. 図書館総合展（国公立大学図書館協力委員会シンポジウム）について

これからの学術情報システム構築検討委員会委員名簿

氏名	所属・役職	備考
佐藤 義則	東北学院大学 文学部 教授	委員長
熊淵 智行	東京大学附属図書館 情報管理課長	
甲斐 重武	京都大学附属図書館 事務部長	
渡邊 俊彦	鹿児島大学 学術情報部長	欠席
山田 奈々	青森県立保健大学 図書課 主査	
原 修	立教大学図書館 利用支援課 課長	
近藤 茂生	立命館大学 学術情報部 次長	
呑海 沙織	筑波大学 図書館情報メディア系 教授	
小山 憲司	日本大学 文理学部 教授	
大向 一輝	国立情報学研究所 コンテンツ科学系 准教授／学術基盤推進部 学術コンテンツ課 コンテンツシステム開発室長・図書室長	
細川 聖二	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長	
高橋 菜奈子	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 副課長	

小野 亘	東京学芸大学 教育研究支援部 学術情報課長 電子リソースデータ共有作業部会 主査	陪席
佐藤 初美	筑波大学 附属図書館 情報サービス課長 NACSIS-CAT 検討作業部会 主査	陪席
酒井 清彦	国立情報学研究所 学術基盤推進部 次長	陪席
上村 順一	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係長	事務局
齊藤 泰雄	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係長	事務局
古橋 英枝	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係員	事務局

第 11 回 これからの学術情報システム構築検討委員会 議事要旨

1. 日時：平成 27 年 5 月 14 日（木）13：30～16：00

2. 場所：学術総合センター 20 階 実習室

3. 出席者：

（委員）

熊淵 智行	東京大学附属図書館 情報管理課長
甲斐 重武	京都大学附属図書館 事務部長
渡邊 俊彦	鹿児島大学 学術情報部長
山田 奈々	青森県立保健大学 図書課 主査
近藤 茂生	立命館大学図書館 学術情報部 次長
呑海 沙織	筑波大学 図書館情報メディア系 准教授
佐藤 義則	東北学院大学 文学部 教授
大向 一輝	国立情報学研究所 コンテンツ科学系 准教授／学術基盤推進部 学術コンテンツ課 コンテンツシステム開発室長・図書室長
細川 聖二	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長
高橋 菜奈子	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 副課長

（欠席）

原 修	立教大学図書館 利用支援課 課長
小山 憲司	日本大学 文理学部 教授

（陪席）

酒井 清彦	国立情報学研究所 学術基盤推進部 次長
-------	---------------------

（事務局）

上村 順一	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係長（CiNii/新 CAT 担当）
齊藤 泰雄	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係長（CAT/ILL 担当）
古橋 英枝	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係員（CAT/ILL 担当）

<配付資料>

委員名簿

1. 第 10 回これからの学術情報システム構築検討委員会議事要旨
- 2-1. これからの学術情報システムの在り方について（たたき台 2）
- 2-2. 平成 27 年度これからの学術情報システム構築検討委員会年間スケジュール
- 3-1. NACSIS-CAT 検討作業部会の設置について（案）
- 3-2. これからの学術情報システム構築検討委員会 NACSIS-CAT 検討作業部会
内規(案)
4. 電子リソースデータ共有作業部会について

<参考資料>

1. 「これからの学術情報システム構築検討委員会」論点整理
2. これからの学術情報システム構築検討委員会規程
3. これからの学術情報システムの在り方について（たたき台）
4. 電子リソースデータ共有ワーキンググループ活動報告

<机上配布資料>

1. これからの学術情報システムの在り方について（概要版：案）

4. 議事：

議事に先立ち、「これからの学術情報システム構築検討委員会規定」に基づき、互選により委員長として佐藤委員を選出した。

また、前回（第10回）委員会の議事要旨についてはメール審議を経て4/8付で確定したため、委員会内での確認は割愛した。

（1）CAT リノベーションについて平成27年度の議論の進め方

事務局より、資料2-1～2-2に基づき過去2回（第9回・第10回）の委員会での意見交換を元に作成された、これからの学術情報システムの在り方および平成27年度の活動スケジュールについて説明があった。また、国立大学図書館協会からの選出委員が作成した机上配布資料について、甲斐委員より説明があった。

審議の結果、5/18(月)に予定されている国立大学図書館協会理事会では、机上配布資料を国立大学図書館協会学術情報委員会名義として提示し、6月に予定されている国公立大学図書館協会・協議会（以下、協会・協議会）の各総会で提示する資料は、委員会で作成された意見を反映し、別途用意することとなった。

審議にあたって行われた質疑・意見交換は次のとおりである。

[資料2-1の前提]

- そもそもこの資料は誰に向けてどこに提示することを想定しており、最終的にこの資料によって何が起きることを期待して作成しているのか、改めて確認したい。
 - 協会・協議会等に対して提示することを想定している。現在議論の中心にあるのはNACSIS-CATだが、NACSIS-CATにだけ焦点をあてるのではなく、これからの学術情報システム全体の在り方を検討する中でNACSIS-CATがどうあるべきなのか、電子情報資源の取り扱いをどうすべきなのか、議論を進めるためのたたき台、というのが想定している役割である。
 - 各機関に対してこの資料を使って説明していくことを考えた場合、まずは現状整理と問題提起までを記載した資料を提示したほうがよいと考え、資料2-1の「概要版」として机上配布資料を別途用意した。具体論の議論はその次の段階で、という流れがよいのではないか。
 - NIIだけでなく大学側も主体となって議論を進めなければならない、という意識共有のための資料がまず必要である。最初から具体論が記載されていると議論

が進まない点を懸念する。

- 資料 2-1 の扱いについての課題は 2 点ある。
1 点は全体の方向性を共有するための資料として内容に過不足がないかどうか。もう 1 点は各機関とスムーズに議論を進めていくためには、どのような段階を踏むべきなのか、それぞれ検討する必要がある。

[内容の過不足]

- 「資料購入費の比率」のグラフは必要なのか。グラフの数値にばかり議論が集中し、本筋から離れるのではないかと。
 - このグラフの掲載意図は、各機関が資料購入費の半数以上を投入している電子情報資源の利用支援について、もっと議論を進めるべきなのではないかと、という提案のための情報提供である。
 - 購入費の変化は様々な要因が絡んでおり、意図しない議論を生む可能性がある。購入費よりも流通の変化やそれに伴う管理方法の変化に焦点を絞る方がよいのではないかと。
 - 電子：紙における購入費の比率と管理システムにかかる費用の比率のアンバランスについても考えていく必要がある。
- ILL や図書館の業務（運用）支援も大きな課題である。電子・紙の媒体を問わず蔵書の継続、キャンセル等の意思決定には統合的な利用統計が重要な要素であり、利用統計に関する支援機能を今後の学術情報システムが持てば、NACSIS-CAT への参加のインセンティブになるのではないかと。
- 今後の学術情報システム、と謳うからには「オープンサイエンス」の位置づけも考慮しなければならないのではないかと。オープンサイエンスに関わるメタデータをどうするのか、という点について本委員会は検討していく必要があるのではないかと。
 - オープンサイエンスに関わるメタデータについてはフォーマットも扱いも統一されていない状況であり、米国が巨額を投じてオープンデータの扱いや機関リポジトリの構築、職員の雇用形態について検討している状況と比較して、日本が政策的な裏づけも投資もなく現場の図書館に一生懸命進めさせる、という姿勢でよいのか疑問である。
 - 現段階では、メタデータの検討対象として「研究データ」と記載し、考慮の範囲内であることを示しておけばよいのではないかと。
- 「学術情報資源の確保」の「確保」は何を指しているのか。
 - 「学内生産の研究成果の確保」と「所蔵資料の電子化」「有料の電子情報資源のライセンス契約」をまとめて「確保」と表現している。
- 研究者・学生だけでなく、生涯学習者等、その他のユーザーについて、図に入れるかどうか、ということだけでなく全般的に考慮する必要があるのではないかと。

[今後の議論の進め方]

- 資料自体は概念図が整理されて、以前より分かりやすくなっているが、疑問点が 2 点ある。
1 点は「大学図書館と NII との連携・協力」の具体的な方法がよく分からないこと。

国立大学と NII は人事交流もあり、連携・協力関係の理解が比較的進んでいるかもしれないが、私立大学はそういう立ち位置ではないので、もう少し分かりやすくメリットと負担を教えてほしい。もう 1 点は協会・協議会等でどういうレベルでこの議論を進めていくか、という点。報告なのか審議なのか、話の進め方も含めて詰めておきたい。

- 私立大学はどこで資料の共有ができそうか。
- 資料 2-2 にある通り、6/12(金)、13(土)の各地区総会で共有できそうである。
- 公立大学協会図書館協議会の総会が 6/5(金)に開催されるので、6/2(火)までに提示資料の確定版をいただきたい。
- 来週月曜日(5/18)に予定されている国立大学図書館協会の理事会での報告は、この机上配布資料を本委員会の資料として報告する、という理解でよいのか。
 - 本委員会の資料とするのであれば資料 2-1 もあわせて提示する必要があるのではないか。
 - 概念図があるだけでも理解度は随分変わるので、資料 2-1 も一緒に出した方がよいのではないか。
 - 繰り返しになるが、資料 2-1 が最初の段階で出てしまうと、ここに書かれている「検討課題」は「NII の課題」と思われる可能性がある。仮に「大学も一緒に検討していく」という前文を記載したとしても、読み飛ばされて最後の具体論だけが目に入ってしまう可能性が危惧される。
- 机上配布資料と資料 2-1 の関係がまだ完全に整理できていないのではないか。
 - 机上配布資料は、資料 2-1 とは切り離して委員からの議論の内容についての報告、というスタンスで理事会に提示し、協会・協議会の各総会用には、資料 2-1 の修正版とその概要版を本委員会名義で改めて作成すればよいのではないか。
 - 今後、概要版は本委員会での確定内容であり、資料 2-1 は議論の途中経過である、という位置付けで公開すればよい。
- 今後は本委員会での議論の内容は親会議体である「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」を経ずにダイレクトに各機関に出していく、という流れにしたい。

(2) NACSIS-CAT 検討作業部会の設置について

事務局から資料 3-1～3-2 に基づいて説明があり、審議の結果、作業部会の設置が承認された。また、委員候補については委員からの推薦を受け、委員長と事務局で検討し、主査はメール審議で委員会が選定することとなった。

審議にあたって行われた質疑・意見交換は次のとおりである。

- 作業部会の検討内容は委員会の検討内容に拘束されるのか。
 - 必ずしも縛られる必要はない。
- NACSIS-CAT が変われば ILL にも影響があると思うが、本作業部会は CAT 単独で検討していく、ということか。
 - NACSIS-CAT と ILL は完全に独立したシステムとして存在することが可能なの

で、CAT が最終的にどのような形をとったとしても、ILL はその時点の要件に合わせて構築するだけである。

- CAT リノベーションという言葉は何を指しているのか、定義が書かれていない。
 - NACSIS-CAT 検討、に置き換えたらいいのではないか。
- 委員はどのように決定するのか。
 - 委員会規定では、主査を委員会で決めてから委員長と主査で他のメンバーを決めることになっている。
 - 委員候補は委員長と事務局で検討し、主査についてメール審議したい。

(3) 電子リソースデータ共有作業部会について

事務局から資料 4 に基づいて説明があり、審議の結果、東京学芸大学学術情報課長の小野亘氏を主査とし、その他の委員も含めて委嘱手続きを進めることが決定した。

(4) その他

[ISO-ILL プロトコルについて (報告)]

学術情報委員会の下システム検討小委員会が 6 月までは GIF プロジェクトチームと一緒に対応し、6 月以降は新メンバーで対応する予定である。今後、紀伊國屋書店 OCLC センター及び NCC 事務局長のマクヴェイ氏、NCC リエゾンの竹内先生とそれぞれ事前協議を進める予定である。

[ILL について (提案)]

- 次回委員会では ILL についても検討を進めたい。SCREAL の調査結果では、必要な文献の入手を諦める人が 3 割いて、特に大学院生に多くみられる。友達から入手する、という回答も 3 割くらいあった。日本では ILL の依頼数が減少しているが、米国では増加しており、かかる費用も安くなっている。他のサービスが電子化しているのに ILL だけが紙に限定されていてよいのか、著作権も含めて次回以降の議題としたい。

以上

平成 27 年 10 月 19 日
電子リソースデータ共有作業部会

電子リソースデータ共有作業部会の活動について（審議）

1. 今年度の経緯

- 4 月 1 日 サイト公開
- 6 月 3 日 第 1 回作業部会
- 6 月 11 日 大学図書館を対象にパートナー募集開始
学術情報基盤オープンフォーラム 2015 で紹介
- 7 月 6 日 第 2 回作業部会
- 8 月 24 日 国公立大学図書館協力委員会 委員長宛「国内刊行電子リソースの共有サービス「ERDB-JP (Electronic Resources Database-JAPAN)」パートナー機関の募集について（依頼）」（国情研コ第 146 号）送付
- 10 月 1 日 第 3 回作業部会

2. パートナー機関数（平成 27 年 10 月 9 日現在）

- パートナーA：21 機関
- パートナーB：3 機関

3. 作業部会のミッション

- (ア) ERDB-JP について、未検討項目の検討を進めると共に、日々の懸案に対応する。
- (イ) ERDB について、目標の確認・再設定をする。

4. 作業部会の今後の活動方針

3 に挙げたミッションに沿って、今後以下の活動を進めていきたい。

(ア) ERDB-JP について、未検討項目の検討を進めると共に、日々の懸案に対応する。

- ① データの品質向上に向けた活動
 - A) パートナーの役割（データ管理）は権限であって義務ではないため、放置される新規登録・修正・削除依頼が発生する。これらのデータ整備について検討する。
 - B) リンク切れデータへの対応を検討する。
- ② パートナーの拡大
 - A) 現在は対象機関を「大学、短期大学、高等専門学校、大学共同利用機関、文部科学省・文化庁の施設等機関」に限定しているが、対象機関を拡大す

る。

B) ERDB-JP データ構築及びデータ品質向上のため、またナレッジベース（以下「KB」という。）のグローバルな流通に資するため、ERDB-JP、KBに関する情報の共有や意見交換を目的として、電子リソースデータ共有作業部会とKBベンダー国内支社または代理店との、KBの作成および提供に関する諸事項について会合の場を設け、関係諸機関と定期的に協議する。

③ 機関リポジトリ担当者向け広報の実施

- A) 機関リポジトリ担当者（特に自機関の刊行物をタイトル単位で登録している担当者）に対してERDB-JPへのデータ登録について広報を進める。
- B) 特にJAIRO Cloud利用機関を対象とした広報およびデータ登録を推進するために、JAIRO CloudとERDB-JPとのデータ連携を目指す。

(イ) ERDBについて、目標の確認・再設定をする。

④ GOKb、KB+との連携

A) GOKb、KB+等の海外KBプロジェクトとコンタクトをとり、今後の連携方法について具体的な意見交換を行い、以下の情報収集を行う。

- GOKbとのpartnership締結の可能性、方法
- システム連携の方法（FTP・API等）
- 電子リソースのメタデータ収集・共有方法（⑥に関連）
- ライセンス（利用条件）の共有方法（⑤⑥に関連）

B) 出版社、ベンダーや図書館が一同に会する学術情報流通についての国際会議 Charleston Conference: Issues in Book and Serial Acquisition（2015年11月4～7日）に部会メンバー2名を派遣し、ERDB-JPのプレゼンを含めて意見交換・情報収集を行う。

C) 海外連携に向けてERDB-JPサイトおよび概要説明資料、広報物の英訳を準備する。

⑤ JUSTICEの交渉対象の電子リソースの登録検討・共有

A) 従来はJUSTICEの契約交渉対象パッケージの内容が日本向け独自パッケージであり、商用KB側での更新が不十分であったため、契約交渉対象パッケージのタイトルリストをERDB-JPを通じKBベンダーに提供することで、KBの質向上につなげることが可能か検討したが、現在海外大手版元はほぼグローバルパッケージと同内容となっており、今後もその傾向が進むため、ERDB-JPとしてタイトルリストの提供は不要とした。

B) 契約交渉対象パッケージの利用条件をONIX for Publications Licenses (ONIX-PL)フォーマットにより、図書館やKBベンダー等で共有するこ

とでサービスの向上（図書館 ILL 担当者や研究者等ユーザから利用条件が確認しやすくなる）につなげるのが可能か検討する。

- ⑥ 電子書籍のメタデータ、契約情報の体系的な収集検討
- A) 電子書籍のメタデータの収集・共有方法について海外の動向を調査し、対応の方向を検討する。
 - B) ライセンスデータの収集・共有方法について海外の動向を調査し、対応の方向を検討する。
 - C) NDL のオンライン資料収集制度（愛称：e デポ）や ISSN 日本センターの ROAD（Directory of Open Access scholarly Resources）との連携を模索する。
 - D) 国内電子書籍の KB の収集範囲や方法等を検討する。

以上

平成 27 年 10 月 19 日
電子リソースデータ共有作業部会

農林水産研究情報総合センターおよび国際農林水産業研究センターの
ERDB-JP へのパートナー参加申請について (伺)

標記について、下記機関の参加を許可してよろしいか伺います。

記

1. 申請機関

9/30 時点でパートナー対象外の 2 機関よりパートナー参加申請があった。

機関名	申請種別	申請日
農林水産研究情報総合センター	パートナーA	6/18
国際農林水産業研究センター	パートナーA	8/3

2. 参加を許可する事由

今回申請のあった 2 機関はすでに ERDB-JP 内にデータがあり、旧 ERDB プロジェクト以来データ構築に貢献があるので、パートナー参加申請を許可したい。

(参考)

- 現在のパートナー対象機関
大学，短期大学，高等専門学校，大学共同利用機関，文部科学省・文化庁の施設等機関
- パートナー拡大について
当作業部会としては，今後，対象機関を有料・無料を問わない電子リソースの発行機関やナレッジベースベンダーについて拡大していきたいと考えており，現在拡大するために必要な規程または機関との協定等について検討・準備を進めている段階であり，作業部会としての案が整い次第，これからの学術情報システム構築検討委員会でご審議いただく予定である。今後は，規定等が整うまでは，すでに ERDB-JP 内にデータがある機関から申請があった場合に限り，個別にご審議いただくこととしたい。
- アカウントの発行
 - 当面の間，アカウントの発行は1機関につき1つ。
 - ウェブサイトのフォームから申請されたものを，事務局が個別に許可をしてい
- パートナー種別
 - パートナーA とパートナーB の2種類。申請機関が選択する。
 - ◇ パートナーA
パートナーA はコンテンツの新規登録はもちろんのこと，ERDB-JP 内のすべてのコンテンツについて，修正・削除が可能。
 - ◇ パートナーB
パートナーB はコンテンツの新規登録が可能。ただし，修正・削除作業の対象がマイコンテンツ（自機関が作成＝オーナーになっているコンテンツ）のみ。

平成 27 年 10 月 19 日
NACSIS-CAT 検討作業部会

NACSIS-CAT 検討作業部会の活動について（報告）

1. 検討体制

所属	氏名	備考
筑波大学附属図書館 情報サービス課長	佐藤 初美	主査
東北大学附属図書館 情報管理課 図書情報係長	関戸 麻衣	
千葉大学附属図書館 利用支援企画課 副課長	三角 太郎	
東京外国語大学 学術情報課 目録係	村上 遥	
お茶の水女子大学 図書・情報課 副課長 図書館企画担当（総務）	平田 義郎	
一橋大学 学術・図書部 学術情報課 目録情報係長	藤井 眞樹	
京都大学 情報サービス課 相互利用掛	大西 賢人	
静岡文化芸術大学 情報室 副主幹	河手 太士	
慶應義塾大学 メディアセンター本部（受入目録担当 課長）	河野 江津子	

事務局：上村、齊藤、古橋（NII）

陪席：大向、細川、高橋

2. 検討状況

【第 1 回 NACSIS-CAT 検討作業部会】

■日時：平成 27 年 8 月 4 日（火）13:00-17:00

■場所：学術総合センター 20 階 講義室 1

■議事：(1)作業部会の趣旨説明

(2)今年度の活動スケジュールと次年度以降のスケジュール

(3)その他

(部会概要)

過去の検討に関する資料については部会当日までに各自で目を通し、その上で各自がイメージする CAT の軽量化・合理化の概要を図にまとめて当日の資料とした。当日は、NII からあらためてこれまでの経緯及び当部会の設置趣旨について説明があった。

各自で作成した資料及び NII の説明をもとに自由な意見交換を行った。これから委員会の最新の検討状況(第 11 回 資料 No.3-1)と、部会での意見交換の方向性については大きな違いはみられなかったものの、各検討項目について次回までにあらためて各自の意見をまとめ、根本的な部分(総合目録のあり方、共同分担方式等)について、次回部会にて具体的なイメージをより深く共有することとなった。

【第 2 回 NACSIS-CAT 検討作業部会】

■日時：平成 27 年 9 月 28 日(月) 13:00-18:00

■場所：学術総合センター 20 階 講義室 1

■議事：(1)第 1 回作業部会での検討結果のまとめ

(2)NACSIS-CAT の検討に係る課題の洗い出し

(3)今年度のスケジュールの確認

(4)その他

(部会概要)

CAT 軽量化・合理化への方針等に関わる課題から意見交換を行い、部分的であり、部会としての現段階での見解をまとめることに努めた。書誌作成部分については一定の共通理解を得られたが、書誌利用部分については、何を主な目的として考えるかの違いにより継続検討となった部分もあった。

第 3 回では、より具体的な検討項目を洗い出し、システム・運用とカテゴリを分けた上で、来春のパブリックコメント実施時に必要な事項から優先的に検討を進める。

なお、議事の途中で、書誌の名寄せシステム試作版のデモがあった。

3. 今後の予定

10/19 のこれから委員会にて、部会の検討内容及びスケジュール等へのご意見をいただき、作業の見直し等を検討する。

NACISIS-CAT検討作業部会 検討事項

A		課題点	対応案(またはご意見)	メリット	デメリット
1	①外部MARCはCATフォーマットへの変換を行わず, そのまま使う。				
2	②外部MARCへの所蔵登録は, ローカルデータを元に一括登録できるようにする。				
3	③オリジナル書誌レコード作成のために, 従来のような書誌・所蔵データの登録・ダウンロードも可能な環境を用意する。ただしCATPプロトコルにはこだわらない。				
4	④大学図書館のマネジメント支援・研究支援になるようなサービス機能を用意する				
B		具体的な検討事項	対応案(またはご意見)	メリット	デメリット
5	CATPプロトコル				
6	スキーマ				
7	RDA				
8	書誌作成単位				
9	ISBD記述				
10	外部リソース活用				
11	運用モデル(共同?集中?完全外部?)				

C	前回からの継続検討事項など	対応案(またはご意見)	メリット	デメリット
12	実体としての総合目録は維持するのか(個別OPAC横断等のバーチャルではなく)。また、それは今後もNIIの中に持つのか。 ●第11回これから委員会資料3-1の図でいうと、オレンジ部分が総合目録？。			
13	共同分担目録方式を維持する場合、どこをどのように分担できるか。			
14	電子媒体の書誌は、出版社等外部が作成したものを利用するとして、それを誰がどこに登録するのか。 ●ERDBは書誌については検討していない。			
15	CATとILLは別々のシステムとすることでよいか。 ●CATで書誌所蔵データ作成。ILLはCiNiiベースで、など。			
D	「第11回これから委員会 資料3-1」の図をベースに検討する場合に詳細な検討が必要な事項	対応案(またはご意見)		
16	書誌調整の軽減の内容 ●ISBN等複数のデータの一致など機械的に統合できる重複は断りなしに統合？ ●雑誌も重複を許す？ ●一切の制限なしか？			
17	書誌フラット化 ●Vol積み書誌は解体→所蔵もそれぞれ ●階層構造は？ ●バランスしない書誌は？			
18	典拠 ●典拠ファイルは維持？ ●必須リンクは残す？ ●重複可能？			
19	参照MARCの位置付け ●修正なしで総合目録に流用可or流用せずに所蔵登録？			
20	オリジナル書誌作成 ●従うべきルール？ ●機能は現行CATと異なる？			
21	「CORE」における名寄せ ●同定の仕様 ●IDの紐付け ●表示の優先順位			

「D」のカテゴリは、「A」及び「C」の各検討項目について方針の決定後、検討が必要になると思われる項目の一部。詳細な検討開始の際に、あらためて検討項目の追加・整理が必要。

項目別検討状況

資料No.3-3

2015/9/28現在

	設定課題	検討結果の概要	主なメリット	主なデメリット	今後の検討課題
A 1	外部MARCはCATフォーマットへの変換を行わず、そのまま使う。	共通の入れ物を作り、そのまま使える書誌として外部MARCを入れる。同一図書に対する複数の書誌の並存を許容(レコード調整は行わない)。所蔵をどの書誌につけるかは各参加館の任意。ただし、ユーザに見せる際は、複数のMARCを名寄せする。データ形式はMARC21等が考えられるが、これは継続検討。雑誌も基本は同じ考え方。記述の質に関わる運用については引き続き検討。	目録作業者の負担軽減 レコード調整の削減 MARC21の利用により国際標準に準拠	書誌単位のずれへの対応 これまでの目録との整合性 MARC21へのコンバータが必要	雑誌特有の問題についても検討要? MARC21以外の選択肢? 累積分の参照ファイルの扱い? MARCの活用方法が異なることにより従来どおりのコストで入手可能か不明(部会では対応しない) ローカルOPACでも名寄せが利用できる? ILLで利用する際の問題?
A 2	外部MARCへの所蔵登録は、ローカルデータを元に一括登録できるようにする。	この機能に関わらず、自動化できる部分は積極的に進めるべき。各館の作業がかえって煩雑にならないように、パブコメ実施時点までに具体的なフローを提案できるようにする。	目録作業者の負担軽減	書誌単位のずれによるエラー?	Vol積の解消が前提? エラー処理の効率化?
A 3	オリジナル書誌レコード作成のために、従来のような書誌・所蔵データの登録・ダウンロードも可能な環境を用意する。ただしCATPプロトコルにはこだわらない。	オリジナル書誌の登録環境はWebインターフェイス等なんらかの形で必要。CATPプロトコルにはこだわらないが、移行期間は残す必要があるのでは。	目録スキルの維持	クライアントの改修が必要? ユニーク資料所蔵館の負担は減らない 目録作業可能者の固定化	登録後に外部MARCを参照して分類・件名等を追加する必要があるか?
A 4	大学図書館のマネジメント支援・研究支援になるようなサービス機能を用意する。	所蔵データ、ILLのデータ等を生かした蔵書構築支援や研究者情報提供等が考えられるが、具体的なアイデア、またはそれを募る案については継続検討。	サービス強化 大学図書館以外のニーズに対応?		新たなシステム仕様の検討が必要?

	設定課題	検討結果の概要	主なメリット	主なデメリット	今後の検討課題
C 12	実体としての総合目録は維持するのか(個別OPAC横断等のバーチャルではなく)。また、それは今後もNIIの中に持つのか。	現在のCATは、参加館の総合目録であり、国内の総合目録を目指すのであれば、未参加館やNDLとの連携が必須となる。現時点では、参考資料No.1の図(「第11回 これから委員会資料3-1」)のうち、オレンジの部分は確定、青の部分はどの範囲にするか、今後検討が必要。	実体としてNIIに置けば管理運用が複雑にならない。 バーチャルな総合目録に対して安定したアクセスが保障される(セーフティネット)。 国際的な連携の窓口ともなれる。	今後の運用体制によっては、参加館が減少する可能性もあり、その場合は総合目録としての機能も維持されない。	総合目録に何を求めるか？ 自館DB作成？ILL？ナビ？ バーチャルで未参加館のOPAC等と連携させても、そのままILLが利用できなければ意味がないのでは？ リアルタイムの情報はどこまで必要か？
C 13	共同分担目録方式を維持する場合、どこをどのように分担できるか。	これまでの検討中に例としてあげられている集中化(目録センター館等)については、なお慎重な議論を要する。 インセンティブについても効果的な案がだせるかどうか。 哲学としてのみ残す方法も。	レコード調整及び外部MARC流用時の作業をなくすことができれば、書誌作成館の目録関連業務はそれだけでかなり負担が軽減される。		
C 14	電子媒体の書誌は、出版社等外部が作成したものを利用するか、それを誰がどこに登録するのか。	EJについては多くの館がリスト経由・リンクリゾルバ等で対応できているが、E-bookについての検討が必要。 その場合、ILL、来館利用、総合目録作成の目的のうちどれを重視するか。 検討の内容によってはERDBのWGと作業分担について調整の必要あり。			
C 15	CATとILLは別々のシステムとすることによいか。	基本的には別々でよい。具体的には今後検討。	NACSIS-CAT/ILLへの未参加館の情報もILL検索対象として取り込む等のが考えられる。 ILLに特化したプラスアルファの機能を考えることができる。	更新タイミングの差？	

A 軽量化のイメージ

- センター方式の総合目録
- 共同分担方式、大学/NIIの役割
- データの品質維持と業務量(コスト)のバランス
- 電子資料の扱い



B 運用のイメージ

- CATとILLの分断
- 他システム(CiNII,ERDB)との連携
- ルール変更
- ローカルへの影響



C 必要なシステム要件

- 現システムへの変更点
- 新規に作成するシステム



人や予算が減っても維持していける?

不便になる業務はない?



コスト削減できる? 研究力が生かせる?



さらに人や予算が減っても維持していける?

NDLやOCLCとの関係?

...システムベンダーのことも忘れないで

平成27年度これからの学術情報システム構築検討委員会年間スケジュール

資料No. 5

平成27年10月19日

	連携・協力推進会議	委員会	実施内容	作業部会	実施内容	参考
5月		第11回(5/14)	大学向け資料作成・説明内容確定			国大図協理事会(5/18)
			説明(熊淵委員)	委員委嘱		
6月				第1回電子リソースデータ共有作業部会(6/3)	キックオフ	公大図協総会(6/5)
						私大図協西地区部会総会(6/12)
						私大図協東地区部会総会(6/13)
						国大図協総会(6/18)
						第1回学術情報システム総合ワークショップ(6/25-26)
7月	第10回		報告(委員長)			
				第2回電子リソースデータ共有作業部会(7/6)		国公立大学図書館協力委員会(7/25)
8月				第1回NACSIS-CAT作業部会(8/4)	キックオフ	第2回学術情報システム総合ワークショップ(8/6-7)
						私大図協総会(8/27-28)
9月				第2回NACSIS-CAT作業部会(9/28)		
10月				第3回電子リソースデータ共有作業部会(10/1)		
		第12回(10/19)				
11月						国公立大学図書館協力委員会(11/6)
						国公立大学図書館協力委員会シンポジウム(11/12)
						国大図協理事会(11/9)
				第4回電子リソースデータ共有作業部会(11/)	次年度活動計画の立案	公大図協拡大役員会(11/20)
				第3回NACSIS-CAT作業部会(11/)		第3回学術情報システム総合ワークショップ(11/27)
12月						私大図協常任幹事会(12/4)
1月				第4回NACSIS-CAT作業部会(1/)	次年度活動計画の立案	
		第13回				
2月	第11回		報告(委員長)			
3月				第5回電子リソースデータ共有作業部会(3/)	次年度作業内容の確認・分担	
				第5回NACSIS-CAT作業部会(3/)	次年度作業内容の確認・分担	

これからの学術情報システム構築検討委員会 Web サイトの改訂について

平成 27 年 10 月 19 日

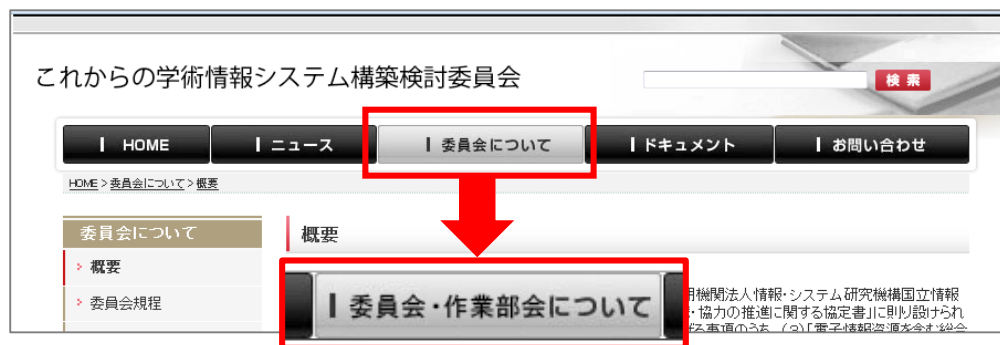
1. 趣旨

平成 27 年度 4 月に委員会の下に「電子リソースデータ共有作業部会」が設置され、同 7 月に「NACSIS-CAT 検討作業部会」が設置された。この 2 つの作業部会の活動状況の可視化のため、委員会の Web サイトに作業部会の項目を追加したい。また、この作業に伴い、ERDB の Web サイトも修正をする。

2. これから委員会 Web サイトの修正

(ア) 修正案 (ページ構成)

① 「委員会について」を「委員会・作業部会について」に変更



② 左メニューに作業部会の項目を追加

作業部会は概要を親見出しとし、内規・委員名簿・沿革・ドキュメントの 4 種類を子見出しとする。委員会のような議事録・配布資料は公開を前提としていないため、ERDB-JP のパートナー募集依頼文や新 CAT のパブリックコメントの掲載場所として「ドキュメント」枠を設けた。



(イ) 修正案（記述内容）

内規・委員名簿・沿革の3ページは委員会と同じ構成になっているので、画面例は割愛する。概要案は以下に示したとおりである。※2つの作業部会で記述が異なるのは黄色部分のみ。

① 電子リソースデータ共有作業部会概要

電子リソースデータ共有作業部会は、これからの学術情報システム構築検討委員会が活動目的とする「電子情報資源を含む総合目録データベースの強化」のうち、特に電子情報資源のデータの管理・共有に関する企画・立案を目的として平成27年4月に設置されました。

② NACSIS-CAT 検討作業部会概要

—前半略—NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化—後半略—

以上

ERDB-JP のパートナー登録申請状況

1. パートナー登録申請状況 (2015/10/16 現在)

26 機関から申請があり、内訳はパートナーA が 21 機関 (うち作業部会委員機関が 5 機関)、パートナーB が 3 機関、パートナー対象外機関 (承認待) が 2 機関である。なお、パートナー募集通知文が 8/28 付で国公私大図協に通知され、それ以降の申請機関数は 12 機関である。

(ア) パートナーA : 21 機関

機関名	アカウント名	申請日	承認日	作業部会委員機関
秋田大学	libzas	2015/09/07	2015/09/07	
大阪教育大学	OKU	2015/07/09	2015/07/09	
大阪市立大学	osaka-city-university	2015/06/12	2015/06/15	
岡山大学	okayama	2015/10/07	2015/10/08	
お茶の水女子大学	ochanomizu	2015/06/11	2015/06/11	○
帯広畜産大学	Obihiro	2015/09/01	2015/09/02	
鹿児島大学	manabuta	2015/06/22	2015/06/22	
金沢大学	kanazawa	2015/09/04	2015/09/07	
九州大学	kyushu	2015/07/2	2015/07/02	
京都大学	kyoto	2015/06/11	2015/06/11	○
慶應義塾大学	keio	2015/06/11	2015/06/11	○
国立情報学研究所	NIILib	2015/09/25	2015/09/25	
島根大学	shimaneuniv	2015/06/11	2015/06/15	
西南学院大学	seinan	2015/09/28	2015/09/28	
電気通信大学	dentsu	2015/06/11	2015/06/11	○
東京学芸大学	togakudai	2015/06/16	2015/06/17	○
富山大学	toyama	2015/09/03	2015/09/03	
佛教大学	bukkyo	2015/06/11	2015/06/16	
北海道大学	hokudai_lib	2015/09/03	2015/09/03	

立命館大学	ritsunivlib	2015/09/08	2015/09/08	
早稲田大学	waseda	2015/10/02	2015/10/02	

(イ) パートナーB : 3 機関

機関名	アカウント名	申請日	承認日	作業部会委員機関
京都精華大学	KyotoSeika	2015/09/01	2015/09/02	
甲南大学	konanlib	2015/06/29	2015/06/29	
同志社大学	doshisha	2015/09/09	2015/09/10	

(ウ) 承認待ち

機関名	アカウント名	申請日	承認日	作業部会委員機関
農林水産研究情報 総合センター	affrit	2015/06/18		
国際農林水産業研 究センター	jircas	2015/08/03		

以上

電子リソースデータ共有作業部会について

1. ミッション

(ア) ERDB-JP について、未検討項目の検討を進めると共に、日々の懸案に対応する。

■ 未検討項目

- ✓ 6月開始時点のパートナー登録機関の範囲
- ✓ 今後、出版者・学会等へのパートナー登録範囲の拡大可否
- ✓ 電子ジャーナル以外の電子リソース (ex.電子ブック) の投入可否と手順
- ✓ 検討結果の Web ページへの反映・ガイド作成

(イ) ERDB について、目標の確認・再設定をする。

2. 任期

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

3. 開催回数

回数： 3 回 (予定)

時間： 2 時間/回

4. 委員 (案)

氏名	所属・役職	備考
小野 亘	東京学芸大学 学術情報課長	
香川 朋子	お茶の水女子大学図書・情報課係員 (情報基盤担当)	
上野 友稔	電気通信大学 学術情報課 学術情報サービス係主任	
塩野 真弓	京都大学 附属図書館 情報管理課 雑誌情報掛	
古賀 理恵子	慶應義塾大学 メディアセンター本部 電子情報環境担当	
塩出 郁	国立情報学研究所 学術基盤推進部 図書館連携・協力室	
片岡 真	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 研究成果整備チーム 係長	
上村 順一	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム 係長	事務局
古橋 英枝	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム 係員	事務局

NACSIS-CAT 検討作業部会の設置について

1. ミッション

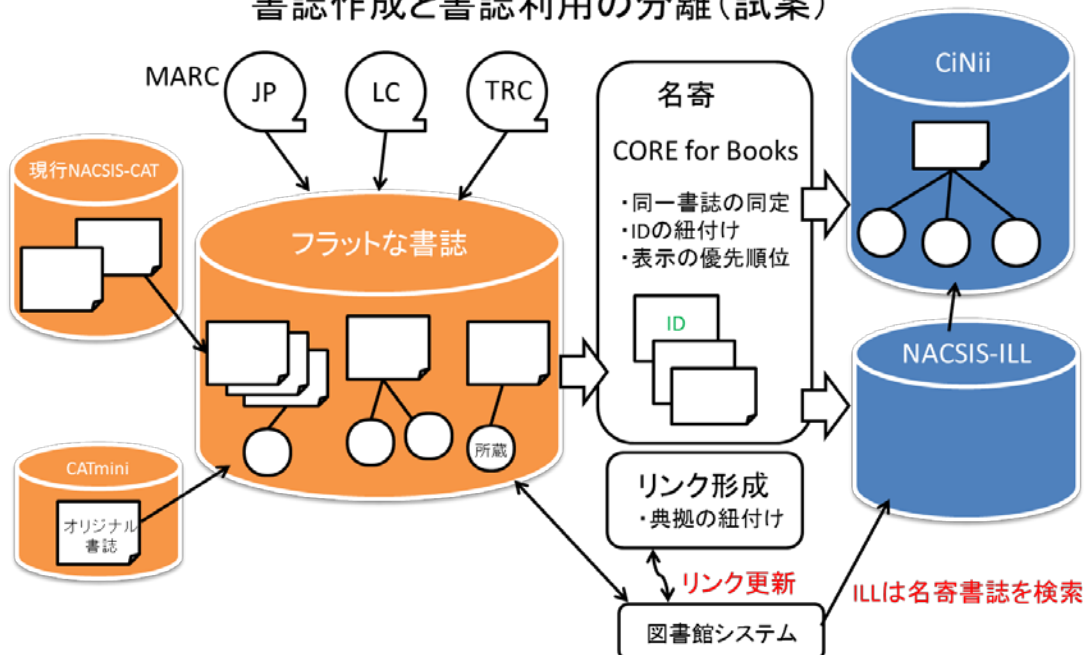
NACSIS-CAT の再構築のために必要な情報を収集・調査し、これからの学術情報システム構築検討委員会（以下、委員会）の検討に資する。

具体的には、第 10 回・第 11 回委員会での検討結果に基づいてパブリックコメントを実施し、各大学図書館協会・協議会等から吸い上げた意見も集約し、具体的なシステム要件について検討を進める。

<第 10 回委員会での検討結果>

- ① 外部 MARC は CAT フォーマットへの変換を行わず、そのまま使う。
 - ② 外部 MARC への所蔵登録は、ローカルデータを元に一括登録できるようにする。
 - ③ オリジナル書誌レコード作成のために、従来のような書誌・所蔵データの登録・ダウンロードも可能な環境を用意する。ただし CATP プロトコルにはこだわらない。
 - ④ 大学図書館のマネジメント支援・研究支援になるようなサービス機能を用意する。
- 検討結果を以下に図で示す。

書誌作成と書誌利用の分離(試案)



システム要件の作成にあたっては、第 9 回委員会で委員から提示されたリノベーションに関する論点について検討し、盛り込むこととする。

- ・ 書誌構造 : CATP プロトコル, スキーマ, RDA 対応等
- ・ メタデータ : 書誌作成単位, ISBD 記述, 外部リソース活用等

また、NII が開催する学術情報システム総合ワークショップ（平成 27 年度テーマ：NACSIS-CAT の運用モデル再考）における調査結果も併せて検討項目とする。

2. 任期

平成 27 年 7 月 1 日(水)～平成 28 年 3 月 31 日 (木)

※作業部会員は再任を妨げない。(3 年程度継続できることが望ましい。)

3. 開催回数

回数： 4 回 (予定)

時間： 2 日間/回

合宿形式も検討に入れる。他に電子メールでの意見交換も含む。

4. 委員

5~6 名程度。

以上

国公立大学図書館協力委員会・日本図書館協会大学図書館部会主催による
平成 27 年度大学図書館シンポジウムの開催について

国公立大学図書館協力委員会シンポジウム企画・運営委員会

平成 27 年度シンポジウム概要

- ・日時： 平成 27 年 11 月 12 日（木）13：00～17：00
- ・場所： 第 17 回 図書館総合展第 5 会場 パシフィコ横浜 アネックスホール 205
- ・テーマ： 2020 年の NACSIS-CAT/ILL を考える

・開催趣旨：

第 8 回連携・協力推進会議（平成 26 年開催）において、国立情報学研究所（NII）より、現在の目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）は 30 年以上前に当時の文部省を中心に練られた構想であり、技術の発展や国際的なデータ交換が当然のこととなる中、2020 年を目途にシステムの構造やコスト負担、また運営面についても根本的に見直すとの方針が示された。これについて、国公立大学図書館協力委員会と NII との連携・協力推進会議の下に設置された「これからの学術情報システム構築検討委員会」が検討を継続して行っている。この情報を共有するとともに意見交換を行う。

・プログラム：

12:30	受付開始
13:00～ 13:10	開会 挨拶：赤木 完爾（国公立大学図書館協力委員会委員長）
13:10～ 15:00	【前半】 講演 1 NACSIS-CAT のこれまでの歩み：佐藤 義則（東北学院大学文学部） 講演 2 「これからの学術情報システム構築検討委員会」からの報告： 甲斐 重武（京都大学附属図書館） 講演 3 つながる目録、つながるサービス：大向 一輝（国立情報学研究所）
15:30～ 16:55	【後半】 講演 4 新しい日本目録規則へ：木下 直（千葉大学附属図書館利用支援企画課） パネル・ディスカッション パネリスト：佐藤 義則（東北学院大学文学部） 甲斐 重武（京都大学附属図書館） 大向 一輝（国立情報学研究所） ファシリテーター：逸村 裕（筑波大学図書館情報メディア系）
16:55～ 17:00	閉会 挨拶：小山 憲司（日本図書館協会大学図書館部会）

以上